

「仕事と育児の両立体験プログラム」最終発表会の開催について

平成30年9月7日
京都府健康福祉部こども総合対策課
電話 075-414-4631

京都府では、結婚や子育てに対する漠然とした「不安」を解消し、安心して結婚、出産、子育てができる社会を目指すため、若い世代の方に、仕事と育児の両立を体験してもらうためのプログラムを実施しています。

このプログラムは、企業でのインターンシップ実習が終わってから、子育て中の家庭にお伺いし、子どもとの触れ合いや育児のお手伝いを体験することで、「京都で働きながら子どもを生み育てる」という人生設計（ライフデザイン）を考えていただく機会とするものです。

昨年、参加した学生からは「仕事と育児の両立が自分にもできるかも」「両立のプラス面に目を向けられるようになった」といった感想が寄せられており、今年度は11名が参加しています。

この度、今年、参加した学生による最終発表会を9月14日（金）に開催し、学生の気付きや仕事と育児の両立に向けた行政や企業への提案等をプレゼンテーション形式で行いますので、ご取材についてよろしくお願ひします。

なお、11月には、本プログラム参加者をパネリストとした「仕事と結婚・育児の両立体験シンポジウム」を開催し、「子育て環境日本一」に向けた機運を盛り上げていきたいと考えています。

<最終発表会>

1 日時 平成30年9月14日（金）13時00分～16時00分

2 場所 京都市男女共同参画センターウィングス京都2階セミナー室
（京都市中京区東洞院通六角下る）

3 内容

プログラム参加学生がプレゼンテーション形式で発表します。

- ・プログラム参加を通しての気付き、印象深いエピソード
- ・自分自身が10年後になりたい姿
- ・仕事と育児の両立について、自分自身が考えていること
- ・仕事と育児の両立が可能な社会の実現に向けた課題と行政・企業への施策提案

4 参加者

プログラム参加学生、受入家庭、受入企業の人事担当者、大学関係者、府民

- ※実習先： ①ウエダ本社（商社・卸売） ②株式会社ShinSei（製造）
③都タクシー株式会社（運輸・物流） ④堀場製作所（製造）
⑤ノートルダム女学院高等学校（教育） ⑥京都府庁（官公庁）



【プログラム参加者数等】

参加学生数 11名（男性6名、女性5名） ㊟14名（男性2名、女性12名）
実習受入企業 6社 ㊟5社
受入家庭 7家庭 ㊟7家庭

【本年の事業スケジュール】

7月22日（日） オリエンテーション
8月 4日（土） 事前学習（ライフデザインセミナー、子どもとの関わり方、両立キャリア講座 等）
5日（日） //

8～9月中に2回 体験学習（共働き家庭で子育て体験やインタビューを実施）
8月18日（土） 事後学習①（1回目の体験学習を終えての気付きの共有、2回目の準備）
9月 5日（水） 事後学習②（体験学習の学びの共有、最終発表会の準備）
9月14日（金） 最終発表会

11月 9日（金） 仕事と結婚・育児の両立体験シンポジウム（場所：ウイングス京都）
※本シンポジウムについては、別途、お知らせします。

仕事と育児の 両立体験プログラム 最終プレゼンテーション

この夏、体験プログラムに参加した学生が自らの体験を通じて感じたことを最終プレゼンテーションをします！
プログラムに興味をお持ちの方、お取組の参考にとお考えの企業の担当者様など、ご参加をお待ちしています！

平成30年
9月14日(金) 13:00～
16:00

入場無料
先着100名

会場 京都市男女共同参画センター ウィングス京都 2階 セミナー室
(京都市中京区東洞院通六角下る)

アクセス 地下鉄烏丸御池駅または地下鉄四条駅・阪急烏丸駅下車 徒歩約5分
(一般来館者用の駐車場はありませんので、電車・バスをご利用ください。)

内容

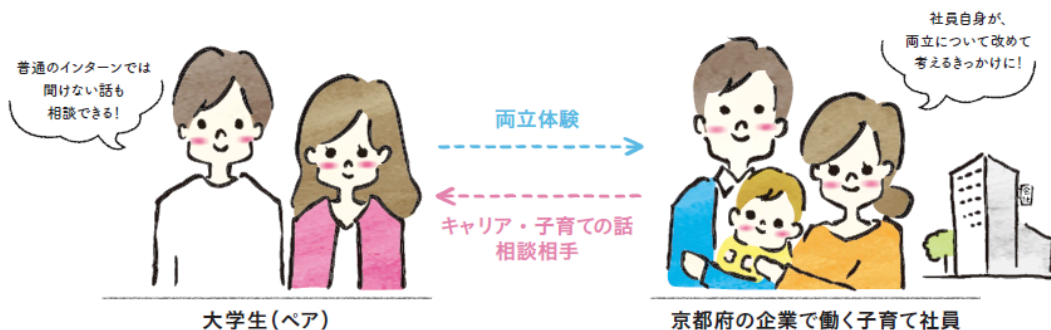
- ◆ 学生によるアイデアプレゼンテーション
 - ・プログラム参加を通しての気づき、印象深いエピソード
 - ・仕事と育児の両立について自分自身が考えていること
 - ・仕事と育児の両立が可能な社会の実現に向けた課題、それを解決するための行政・企業への施策提案
- ◆ 意見交換会

申込 申込フォームよりお申し込みください。
<https://kokucheese.com/event/index/532688/>



仕事と育児の両立体験プログラム

両立体験プログラムとは、「仕事と子育ての両立」を体験し、10年後のなりたい姿を考えた上で、目の前の就職活動に活かしていく、新しい形のインターンシップです。



予告 仕事と育児の両立体験シンポジウム

日時: 11月9日(金) 15～17時
場所: ウィングス京都

京都府

仕事と育児の 両立体験プログラム

大学生がインターンシップ先の家庭で子育てを体験！！

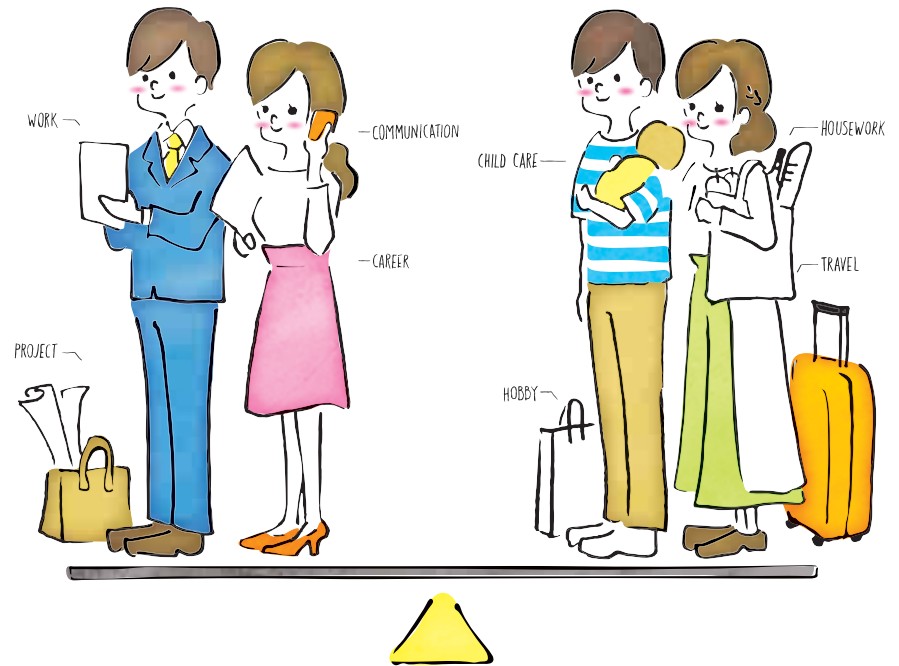
きょうと若者ライフデザイン事業について

京都府では、平成27年に大学や企業、若手社会人、学生の皆さんと一緒に「ライフデザインラボ」を設立し、若い世代の方にワークショップ形式で、仕事だけでなく結婚や子育ても含めたトータルの人生設計(＝ライフデザイン)を考えてもらう取組を進めてきました。

その中で聞かれた声は、「結婚や出産はしたいし、仕事も続けたいけど、そんな生活がイメージできない」「きっと自分には無理だと思う」といった漠然とした不安の声でした。

そこで、簡単にご自身のライフデザインを諦めず、実際に体験して、具体的にイメージし、不安を解消してほしいと、平成29年に他都道府県に先駆けて開始したのが本プログラムです。

今後たくさんの方に御参加いただき、前向きなライフデザインを描いていただくと嬉しいです。



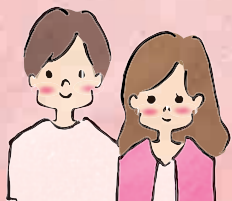
仕事と育児の両立体験プログラム

若い世代の方に、ご自身のライフデザインを具体的にイメージしていただき、「京都で働くこと」「京都で子育てをすること」の両方を体験的に学んでいただくプログラム。

(公財)大学コンソーシアム京都とも連携し、大学生が企業でのインターンシップ実習後に、その企業で働く社員の家庭で、子育てを体験します。

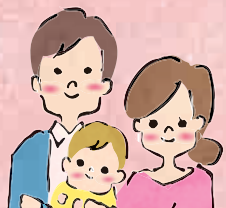
ここがポイント!

学生



社員の方の働く姿だけでなく、子育ての様子を見て、その企業での「仕事と育児の両立」をリアルに体験できます!!

受入家庭



子どもが喜んでくれる上に、社員自身が、働き方や育児との両立について改めて考えるきっかけになります!!

平成29年度実施結果

実習受入先(5社・7家庭)

- (株)堀場製作所
- 学校法人京都外国語大学
- (株)ロマンライフ
- 京都府庁
- (株)ウエダ本社

参加学生 14名(男性2名・女性12名)

- 京都大学
- 京都府立大学
- 同志社大学
- 京都産業大学
- 島根大学
- 立命館大学



プログラムの流れ

下記の両輪で「働くこと」「子育てをすること」の双方を体感いただくプログラムです。

大学コンソーシアム京都プログラム

STEP 1 事前学習(4日間)

コミュニケーションやビジネスマナーのトレーニング、業界研究などをゼミ形式で学習します。

STEP 2 企業での体験実習(10日間以上)

各企業等で2週間～1ヶ月程度のインターンシップ(就業体験)に参加します。

〈実習の一例〉

企業での実習	
08:30	新聞の切り抜き
09:00	業務内容の確認
10:00	プロジェクト会議に参加
13:00	報告書作成
15:00	広報チラシの作成
17:00	インターンシップ終了

STEP 3 事後学習(1日間)

実習での学びを振り返り、学生同士で発表。ディスカッションを通して学びを共有します。

両立体験プログラム

STEP 1 事前学習(2日間)

10年後になりたい姿は? 自分にとっての仕事って? 育児って?子どもと関わる時のポイントは?などなど... 多彩なワークショップから考えます。

STEP 2 家庭での体験実習(2日間)

インターンシップ期間内の2日間、社内の共働きのご家庭を訪問。育児のお手伝いや、お子さんとの遊び、ご家庭へのインタビューを行います。

家庭での実習

17:30	社員と一緒に保育園へお迎え
18:00	帰宅・お子さんと遊び
18:40	お子さんごはん
19:40	お子さんをお風呂に入れるお手伝い
20:15	家庭へのインタビュー
21:00	実習終了

STEP 3 課題解決(3日間)

体験実習を振り返り、自身が10年後になりたい姿や、それを実現するための社会について考え、最終日には企業・行政の施策を提案します。

楽しみながら、しっかりと体験学習に備えます♪



仕事と育児の両立をリアルに体感!



学生ならではのアイデアを企業や行政、共働き家庭に向けてプレゼンテーション!



参加した

学生の声

何が不安なのか自分でもわからない… そんな状況を打破すべく参加!

参加する前は、将来の仕事や家事、育児…想像できないことばかりで、何が不安なのかもわからない状態。このプログラムでは、自分の両親ではなく、普段知ることのできない他の家庭の様子を間近で見て、両立されている様子を体験することで、自分の中でロールモデルを見つけられると思い、参加しました。



自分にとっての「両立」のイメージに変化が

家事や育児、仕事、夫婦関係など完璧にこなしてこそその両立だと考えていました。しかし、インターンで様々なご家庭の様子を見て、手を抜くところは手を抜くという折り合いをつけていくことが、両立していくうえで重要なのだとわかりました。



周囲に幼い子どもがいない 自分にとって貴重な経験ができました

お話を聞くだけではなく、実際に職場体験をした後に、そのままご自宅へお邪魔してお子さんとお会いし、子育てを体験する、という体験型だったことが魅力です。最初は話しかけてもなかなか返事をもらえず戸惑いましたが、一緒に宿題や夕飯のお手伝いをしながら仲良くなることができました。最終日、「バイバイが言えなかった」と電話をかけてきてくれたのが、仲良くなれた“しるし”のような気がして、とても嬉しかったです。



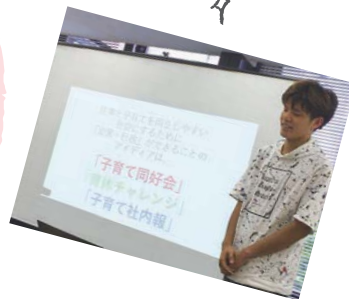
仕事と育児の両立。自分にもできるかも!

両立のためには、「女性」が仕事と育児を頑張らなければいけない、どちらも頑張りたいけど自分には無理、どちらかを諦めなければ、と思っていました。参加してみて、パートナーとの協力や工夫でどうにでもなる、自分の楽しみ次第だと思えるようになりました。「子どもがいることで仕事のモチベーションにもなる」と、ご家庭の方が生き生きとした表情でお話されていたのが印象的でした。



知らないから「漠然とした」 不安が生まれることを実感

参加する前は、両立に対して漠然とした不安だけがありました。今もちろん不安なことはありますが、それは漠然としたものではありません。ご家庭から、実際に大変なことやその対処方法を学ぶことができたからです。知らないことに対しては「漠然とした」不安しか抱けないことが、今になってどれだけ怖いことなのか強く感じます。



両立の「プラス面」に 目を向けられるように

参加前は、「両立=大変」というイメージが先行しがちで、マイナス面ばかりを気にしていました。実際に体験し、課題だけでなくメリットも見て、そこから自身がどうなりたいのか、将来像を具体的にイメージすることができました。楽しいことや、子どもの成長の喜びがあることを知り、ご家庭の楽しそうな姿を見ていると、私も両立してみたいと、プラスに捉えられるようになりました。他大学の学生と交流して意見を交わせることができたのも、とても楽しかったです。



受入先の皆さんを 前にしての最終発表が印象的

企業と家庭それぞれのインターンを体験できるというコンセプトに魅力を感じ、参加しました。また、体験するだけではなく、最終的に受入れ先の皆さんの前で施策の提案をさせていただけたことがとても印象的でした。発表会にはお子さんも多く、とても温かく素敵な場だなと感じました。

受け入れていただいた

企業の声

学生・社員 双方にとって 意義のあるプログラム

学生時代に両立のイメージを描きながらキャリアを考え、就職の選択肢の幅を広げることができるのはとても良いこと。また社員にとっても、自身の働き方や子育てを改めて振り返る良い機会になると考え、受入を決めました。



社員が新たな気づきを得るきっかけに

学生に自身の経験や考え方を話すことで、社員自身にとっても新たな気づきや、これまでの振り返りができて良い機会になったようです。

社員が新たな目標をもつきっかけに

誰かのために自分たちの経験が役に立つこと、自分の思いを言葉にしてみることで、自身のキャリアへの自信につながったようです。自分も当事者として何か社会に貢献していきたいと、社会人として新たな目標を持つきっかけにも。



自社の組織風土を さらに理解してもらうきっかけに

自社で働くこと・子育てをすることの双方を体験してもらうことで、短期間ではあっても、組織風土や自社の雰囲気をしっかり理解してもらうきっかけになりました。

受け入れていただいた

家庭の声

学生さんに少しでも前向きに 将来を考えてほしい

子育てを実際にするようになって初めて気づいた事が多く、将来に不安を感じる学生さんがいるのなら、自分たちの経験をお伝えすることで、少しでも前向きに将来の事を考えていただければと受入を決めました。



子どもにとっても良い経験に

学生さんが家に来ることを子ども達がとても喜んでくれ、その週初めからワクワクしていました!また、子どもが親だけではなく多様な世代と触れ合う良い経験にもなり、学生さんからいただいた手紙は大切にしています。

受入による負担は 全くなく、あっという間でした

学生さんがとにかく前向きな姿勢で来てくれたので、負担に感じることは全くありませんでした。家の中が乱雑なもの『両立あるある』。これを見ていただくのも学生さんにとって良い経験だととらえました(笑)。もっといろんな話やいろんな経験が一緒にできたら良かったくらい、あっという間の2日間でした。

自分たちにとってのエネルギーに

学生さんとお話の中で、私たち子育て世代が今の若い人達にどのように見えているのかを知ることができ、その視点や意見が新鮮に感じられて、普段の子育てや仕事をまた頑張ろうと思えるエネルギーをもらったように思います。学生さんに「両立にもいろんな形がある」と肯定的に受け取っていただけたことは、自分たちの励みになりました。



自身の考え方にも変化がありました

学生さんから質問を受ける中で、自身がこれまでのライフイベントの中でどのような考えを持って意思決定してきたかを整理でき、子育ての方針について家庭で話し合う機会も持てました。実際に仕事や子育てをしている私たちが、若い人たちに「将来はあんなふうになりたい」と思ってもらえるよう、楽しみながら両立していきたいと考えるようになりました。職場でも、もっと自然に両立ができるような環境づくりをしたいと考えるように。

